

した。熊大附属病院などで診療に従事した後、平成十九年に大学院に進み、臨床倫理学を専攻しました。当分野の前教授である浅井篤先生（現 東北大学医療倫理学分野教授）の指導の下、無意味な治療 (futile treatment) に関する記述研究

を行い、博士号を取得しました。その後、生命倫理学を体系的に学ぶべく平成二十五年よりオーストラリアのモナシユ大学生命倫理学修士コースに約二年間在籍し、臨床医療の倫理に加え、医学研究や医療政策に関する倫理、生命と死の概念さらには生命倫理の研究手法などについて学び、生命倫理学修士号を取得しました。そして平成二十六年十一月に当分野准教授のポストをいただき、生命医療倫理領域の学術研究、学内の生命倫理教育と研究倫理審査を担当してまいりました。

医療、医学そして生命科学の発展は基本的に善いことですが、その過程でさまざまな道徳的疑問も発生します。今日の身近な例として、延命治療を中止できるのか、子宮頸がんワクチン接種を勧奨すべきか、遺伝子を編集してよいのか、動物から移植用臓器を作成してよいのかといった問いに我々は直面しています。生命倫理学はこのようなELSI（倫理的・法的・社会的課題）を考察し、社会規範および当事者の行動規範の確立を指します。一方、医療や研究の現場レベルでわれわれは個別具体的な道徳的ジレンマに直面します。たとえば、治療を行

うべきか、病状をすべて告知すべきかといった難題はとも身近です。生命倫理学は、そのような当事者が善い行為を選択するための根拠や、実際の意思決定に重要な知識とスキルを提供します。

当分野は、領域あるいは大学横断的な活動をとおして生命医療倫理関連の諸課題に関する記述そして規範研究を行います。また、医療者や研究者に対する倫理支援活動を展開し、現場におけるジレンマ解決のための助言、関連情報や教育を提供します。医療系学生の教育だけでなく、専門職や研究職の皆さまの日々の実践や活動を支援し、倫理的そして学際的なアプローチができる人材を育成していく所存です。加えて、本学で行われる医学研究の倫理審査など、さまざまな活動をとおして母校である熊本大学の発展に貢献します。ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 熊本大学大学院生命科学研究部 呼吸器内科学分野教授 就任のご挨拶



大学院生命科学研究部  
呼吸器内科学分野教授  
坂上 拓郎

この度、平成三十年六月一日付で、熊本大学大学院生命科学研究部呼吸器内

科学分野教授を拝命いたしました坂上拓郎と申します。一言ご挨拶申し上げます。

私は平成九年に新潟大学を卒業し、二年間の内科研修後に平成十一年に新潟大学医学部第二内科学教室に入局し呼吸器内科を専攻しました。大学院時代には東京大学医科学研究所ゲノム情報応用診断部門に国内留学し、気管支喘息の感受性遺伝子に関する研究で学位を取得しました。その後は、新潟県内の関連病院で、各施設の先輩より呼吸器内科医としての実地診療の指導を受けた後に、平成十九年から米国シンシナティ小児病院の Bruce Trappell 教授の研究室に留学しました。一九五八年の疾患の初報告以来、原因不明であった特発性肺胞蛋白症の病態を、実際の症例から精製した抗GM-CSF自己抗体を投与することにより力ニクイザルに再現できること明らかにし、自己免疫性肺胞蛋白症という概念の確立に貢献することができました。その際に経験した、*bedside to bench to bedside* という研究と臨床が密接に結びつくスタイルに強く感銘を受けました。平成二十二年に帰国後は臨床の見える医学研究を志し、若い医師にもその魅力を伝えるべく臨床・研究・教育に従事してまいりました。その臨床と研究を一体としながら個々の成長を目指すという方向性は熊本大学においても継続したいと考えております。

呼吸器内科医が専門性を発揮すべき疾

患としては、肺癌にはじまり、COPD・喘息、間質性肺炎、睡眠呼吸障害、呼吸器感染症などと非常に幅広く広がっています。各分野で人口の高齢化と相まって罹患者が増えているだけでなく、少し前には想像のつかなかった診療の進歩を遂げています。医療需要は今後も拡大が予測される診療分野ですが、その専門医数は全国で六千余名であり、まだまだ地域住民の期待に十分に応えられていないのが実情です。そういったことを少しでも改善していくために、若い医師が志してくるような魅力ある教室づくりを最優先に取り組んでいきたいと考えております。幸いなことに、当教室には申し分のない臨床力を持つ伸び盛りの医師が多数在籍しており、非常に頼もしく感じております。臨床を基本とした軸足から、呼吸器診療・呼吸器病学の発展に力を尽くすと同時に、実際の医療から生じた疑問を医学的な解決法を用いて明らかにしていくことのできる次世代の若い医師・医学者の育成に励んでいきたいと思っております。皆様には今後ともお力添えいただけますようお願い申し上げます。